



プロジェクト名称

空き家改修プロジェクト

プロジェクト活動概要

2011年3月11日。東日本大震災で日本全体が大打撃を受けました。その際、地方コミュニティの希薄さが顕在化し、解決策の一つとして、「みんなの家」がつけられ地域コミュニティの一躍をかうこととなりました。

これは東北だけでなく、今後の日本ではどこにでも起こりうる事態であると考えました。そこで、今回のプロジェクトでは、トラフ南海地震のおそれのある中部地方に目を向け、大地震が起こる前にコミュニティを事前に形成するのを目的とする「事前みんなの家」を、同時進行する別の問題である「空き家問題」と関連させて解決していくための「空き家改修プロジェクト」を実施します。

活動状況報告&活動写真など 活動期間：2014年10月1日～12月31日

空き家の実施活動は終わり、次年度に向けて少しずつアクションを起こしている所です。東伊豆町からは次の空き家改修を期待されています。町の方でも空き家活用推進委員会というものを設置して、今後より空き家改修や活用が進んでいくことが期待されます。そこに我々の団体が関わっていくことでよりよい方向へとまちが変わっていくことを見届けていきたいです。学生として、具体的な設計から企画まで町に対して提案していくことを考えました。それは役場の人に見て頂き、良い評価も得られました。また、この提案と同時に今回実施した空き家改修の結果を芝浦祭期間中に開催されていたチャンピオンシップに投稿し、広く多くの人に周知することができたと思います。

今後の活動計画、目標、意気込みなど

今年度の空き家改修プロジェクトの活動は12月をもって既に終了しました。しかし、これだけで空き家という社会問題が解決したことにはなりません。また、地域の問題も残っています。今後ともこれらの問題を考えていきたいと思えます。ですので、次年度も空き家改修を通して、地域の問題解決と活性化を行っていききたいです。



全体都市計画

2014.10~ 稲取モデル
「手紙」による持続可能なまちづくり

a 天草干場 心太の原材料である天草の加工と乾燥場
良質な天草が採れ、かつては銘菓虎屋にも
出荷していた



d 清光院下 古来から水源が乏しく、住民にとって貴重な
「陣屋の水」 場所。旧役場が昭和59年まで95年間あった



b 港の朝市 毎週土日 AM8:00~11:30
名物・B級グルメ販売を行っている



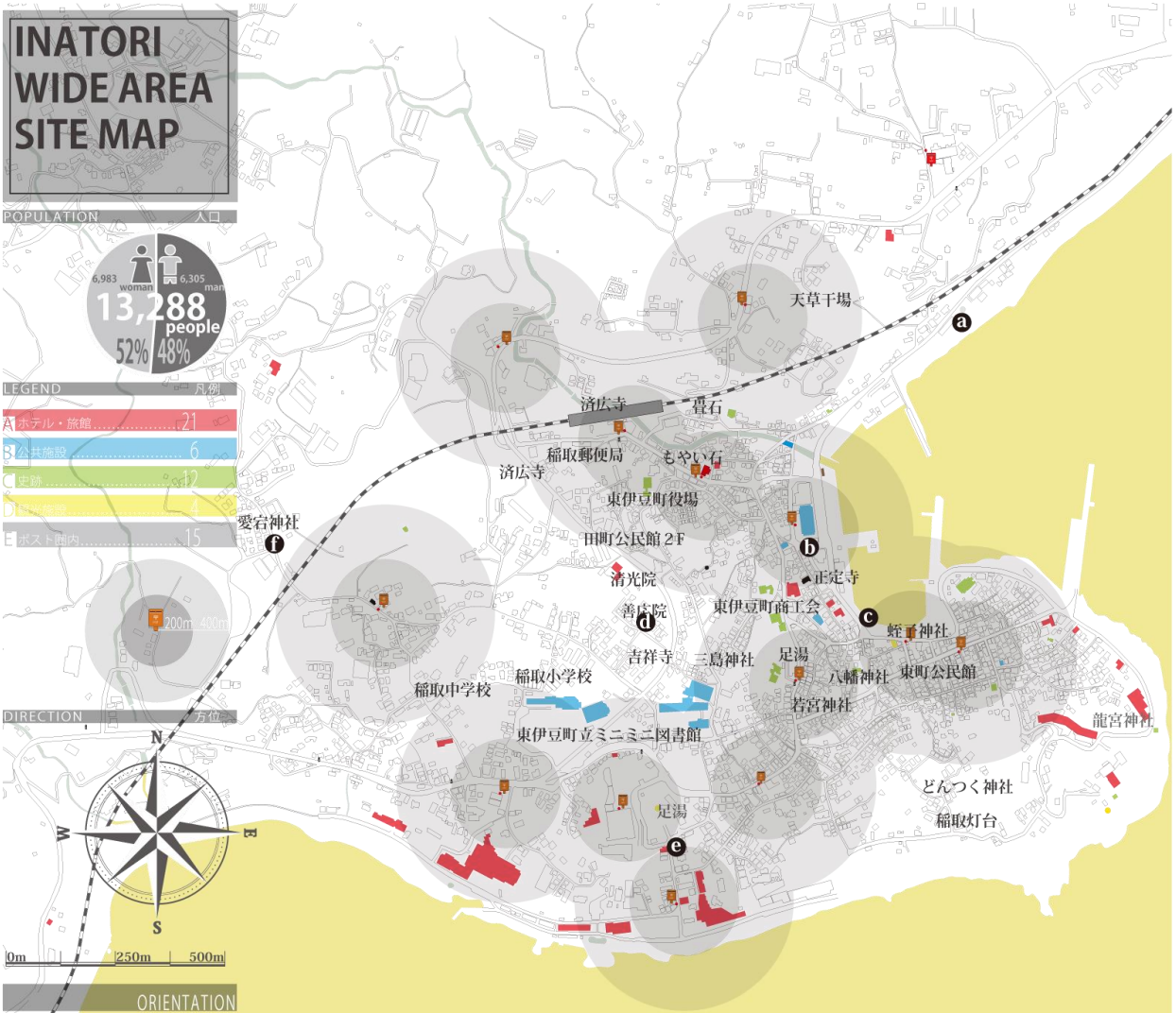
e 足湯 無料の足湯
地元企業の提供によって運営され、
屋内・屋外にある



c 漁港 一流ブランド「稲取キンメ」漁師が集まる
稲取の漁師はブランドに誇りを持っており
キンメ漁しか出来ない程である



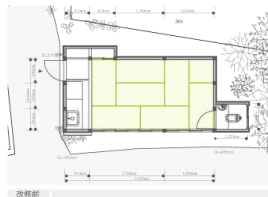
f 愛宕神社 この地区を見晴らす小高い山の上
にあるまちを見下ろすことができる
景観スポットでもある



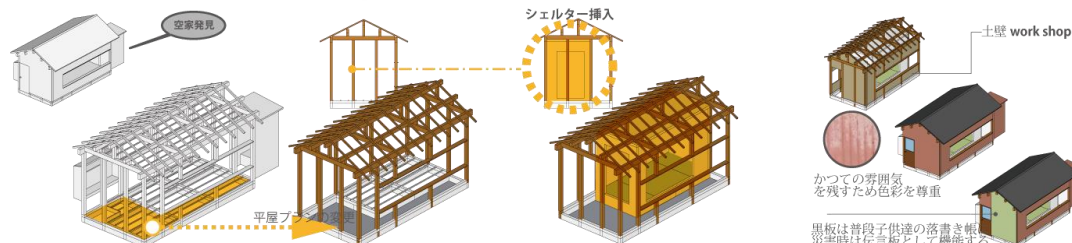
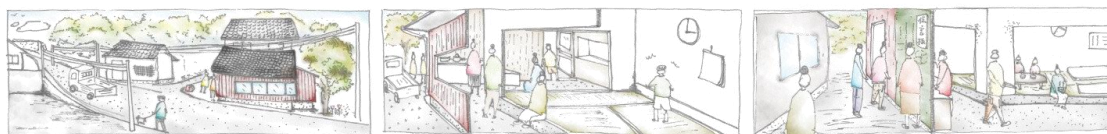
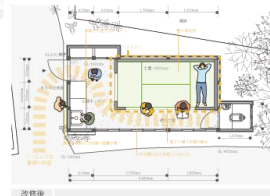


01_ 実測調査

まちから紹介された空き家を実際訪れて周辺敷地環境、建築内部の寸法破損箇所、備品等を調べてゆく。



模型による検討、プラン作成
スケッチによる空間イメージ
CAD によるシミュレーション
等で改修検討。



かつての雰囲気
を残すため色彩を尊重

黒板は普段子供達の落書き帳
災害時は伝言板として機能する

02_ 施行、work shop

自分たちが考えた改修をまちの人と一緒にやっていく。



02_ 完成

自分たちが考えた使い方等を町の人に伝え町の人たち自身で使ってもらおう。



~2014.09.18 **水下庵改修**
第1期 地方地域空き家問題の認識と可能性



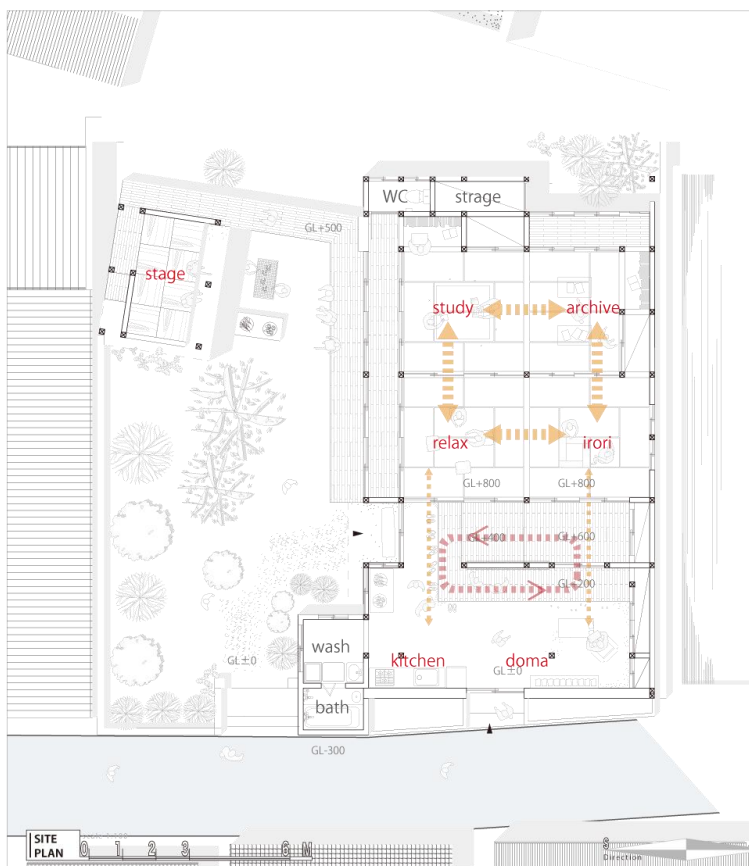
2014.10~いしのいえ改修 まちづくり案を具現化する空き家改修プロジェクト第二弾

提案 「まちの玄関」として、周辺住民・来街者のいこいのいえをつくります

第2期改修役場から歩いてすぐの民家を対象とします。この家の外壁は江戸城建設にも使われた「築城石」によって覆われていて、まちのランドマークになり得るポテンシャルを秘めています。私たちはこの空き家改修によって、「まちの玄関」というプログラムを与えます。来街者が最初に訪れる場所。地域住民が日頃からあつまることのできる場所。そんな外部と内部のひとの循環が生まれる場所を目指します。

まちの玄関

観光案内所、郷土資料館
舞台、いこいの家



設計 土間を介してまちとつながる平面

最小限の操作によって、多様な活動を促す空間構成を構築しました。壁を利用し、そこで生まれた場所性が中心の和室にも影響する多層化したを設計します。

